

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2010

課題番号：21700819

研究課題名(和文) 社会人と中学・大学生との交流促進のための SNS 構築とキャリア教育としての評価

研究課題名(英文) An Evaluation of Carrier Education by facilitating communication among Students and Mentor on the Internet

研究代表者

尾澤 重知 (OZAWA SHIGETO)

早稲田大学・人間科学学術院・准教授

研究者番号：50386661

研究成果の概要(和文)：

本研究では、多様な職業についての理解や、自己理解を目的としたキャリア教育を大学生や中学生を対象として実施し、その評価を試みた。学びを促進する仕組みとして、生徒や学生、社会人の交流に着目し、交流を促す手段としてインターネット上の交流システム(SNS)を活用した。中学校と社会人、大学生同士の交流を促す授業実践を3つの現教育場で実施した結果、職業理解はもちろん、自己理解の支援を図ることができた。

研究成果の概要(英文)：

In this research, I practiced a carrier education for junior high school students and university students to facilitate their understanding about the various occupations and self-understanding, and then I evaluated three practices. I used Social Networking System (SNS) and the other system on the internet to facilitate communication among students, and mentor who have work. As a result of my research, I could support their understanding about the occupations and carrier.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,500,000円	450,000円	1,950,000円
2010年度	900,000円	270,000円	1,170,000円
年度			
年度			
年度			
総計	2,400,000円	720,000円	3,120,000円

研究分野：教育工学

科研費の分科・細目：科学教育・教育工学 教育工学

キーワード：キャリア教育、授業実践研究、ソーシャルネットワークサービス(SNS)、Twitter

1. 研究開始当初の背景

近年、若年層における仕事観や労働意欲の変化や、雇用環境の変化などを背景の一つとして、若年層に対する「キャリア教育」の重要性が指摘されている。

文部科学省の中央教育審議会の答申では、キャリア教育は「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリア（職業生活を核とした生き方）を形成していくために必要な意欲・態度や能力を発達の的に育てる教育」（文部科学省 1999）と位置づけられ、議論が進められている。

初等中等教育においては、総合的学習の時間や進路指導を利用したキャリア教育が実践されている。大学教育においても、就職支援は重要なテーマである。従来の就職活動の支援ではなく、近年では、正規の教育プログラムの一環としてキャリア教育が進められている。現代的教育ニーズ取組支援プログラム（GP）においても、「実践的総合キャリア教育の推進」のテーマが設定され、各大学で様々な試みが進められている。

キャリア教育には、いくつかの要素があるが、多くに共通するのは(1) 仕事・職業の理解の促進、(2) 自己理解の支援のためのプログラムの提供である。具体的手法としては、社会人（卒業生）による講演の実施、職業体験学習。また、放送番組の視聴や、書籍やインターネット等を教材として用いた学習機会の提供などの事例が見られる。大学教育では、これらに加え、キャリア論などに関する講義やガイダンスなどの事例も見られる。

2. 研究の目的

本研究では、多様な職業についての理解や、自己理解、また自己を取り巻く環境への理解を目的としたキャリア教育を、大学生や中学生を対象として実施する。実践研究を通して今後のキャリア教育に向けての知見と課題を検討することが目的である。

学習を促進する仕組みとして、本研究では生徒や学生、社会人の交流に着目した。また、これを支援する仕組みとして、交流を促す授業デザインの工夫に加え、インターネット上の交流システム（SNS: Social Network Service）や、学習管理システム（LMS : Learning Management System）を活用した。大学生や社会人に対しては、近年、急速に普及しつつあるソーシャルコミュニケーションツールの一つである Twitter や、スマートフォンなどの携帯デバイスを利用し、参加者らが日常的、かつ自然な形で参加しやすいようにした。

さまざまな特徴を持つ授業実践のうち、本報告では、とくにインターネット上の交流機会の効果や、仕事・職業や自己理解の支援の成果について焦点を当てて検討する。

3. 研究の方法

本研究は授業実践を対象とする授業実践研究である。そのため本節では、研究方法に加え、研究の対象となったフィールドについて言及する。本研究では、以下の3つのフィールドを研究対象として、活動を進めた。

一つは、2005年度からA中学校とB大学の協力で実施してきた中学校3年生向けの総合的学習の時間での実践である。多様な職業や、仕事について学習することを目的とした授業実践であり、例年180名前後の生徒が参加した。

本実践では、SNSもしくは電子掲示板を用いて中学生と社会人が、質疑応答を中心としたコミュニケーションができるようにした点が特徴である。2007年度からはSNSのプラットフォームとしてオープンソース型で開発されているOpenPNEを基盤とし、授業用にカスタマイズを行った（図1）。



図1 SNSを利用した交流サイト

第二は、異なる大学の学生間交流に焦点を当てた実践である。本実践は、国立大学法人大分大学が平成19年度に採択された文部科学省「戦略的・大学連携支援事業「学と学の連携による知の総合交流拠点」」の下で企画された授業実践をフィールドとした。

本研究代表者は、当該の実践に対して、教授法やテクノロジー導入の面で支援を行った。後述するように主なシステムは研究代表者が構築、提供したものである。

本授業実践は、中心となる大学では通常の授業を行う一方で、大分県内の連携大学・高等教育機関の受講者に対してはビデオオンデマンドで配信を行った。また、学期中に1回、全ての大学の履修者を1拠点に集め、合同対面授業を行った点が特徴である。

合同対面授業は、履修者間の交流の機会となるように、グループ学習を企画し、自身の地域や所属組織を意識させる内容とした。

本実践では、全受講生が利用可能なシステムとしてオープンソースの LMS である moodle を基盤として利用した(図 2)。また、合同対面授業でのグループ学習を促進するために携帯デバイス等で撮影した写真を共有する写真共有システム quamp を導入した。

2009 年度から授業計画の摺り合わせを行い、2010 年度前期、後期にシステムを利用した授業実践を行った。前期に開講された授業 P では約 110 名(通常 80 名+オンデマンド 30 名)、後期の授業 Q は約 140 名(通常 80 名+オンデマンド 60 名)が受講した。



図 2 LMS を利用した学習支援サイト

第三は、研究代表者が担当しているキャリアデザインや企業内での人材育成をテーマとした大学での授業実践である。

2010 年度前期・後期それぞれで異なる授業を開講し、前期の授業 A では約 300 名、授業 B は約 180 名が履修した。

本授業実践では、授業内のリアルタイムでの意見交換や、オープンなコミュニケーションを促進することを目的として、ソーシャルコミュニケーションツールである Twitter を導入した。本実践では実験的な試みとして利用は学生任意としたが、授業内で Twitter のタイムラインの画面を適時表示することで、参加していない学生でも投稿内容についてある程度、共有できるようにした。

いずれの授業実践でも、(1) 授業の参与観察結果(フィールドノート) (2) 参加者に対する質問紙調査結果 (3) SNS や LMS、また Twitter の投稿データ等などの質的データ、量的データを研究リソースとした。

4. 研究成果

研究フィールド別に成果を概観する。

(1) 中学校での社会人との交流型の実践

05 年から実践してきた 4 年間の実践の知見を整理し、今後の実践に役立つ論点を見いだすため、SNS や電子掲示板での中学生と社会人とのやりとりを検討した。

本授業実践では、社会の先輩としての社会人と中学生を、電子会議室や SNS で結び、質疑応答を基本としたコミュニケーション機会を提供した点に特徴があった。年度によって異なるが、全体では表 1 のような職種の社

会人に協力を得ることができた。

研究では生徒と社会人のコミュニケーションの特徴を検討するために、生徒がどのような質問を行ったに焦点を当てた。その結果生徒は「仕事内容」「経験」「感情」「進路・資格」「理由」「言葉」などについて、社会人に対して質問していることが示された(表 2)。

表 1 協力を得た社会人の職種

大分類	職種・職業名
教育に関わる仕事	小中学校教諭, 保育士, 幼稚園教諭, 大学教員など
国民生活	国家・地方公務員など
医療福祉	医師, 助産師, 看護師・保健師, 臨床心理士など
物やサービス	販売員, シェフ, 美容師, フライアテンダントなど
組織・経営	会社経営者, 個人事業主, ITベンチャー, 農家など
技術・スポーツ	塗装の研究者, システムエンジニア, スポーツ選手

表 2 質問内容の分類

分類	分類数(比率)	特徴・キーワードなど
仕事内容	294(29.8%)	仕事内容一般. 具体的な仕事内容. 決まり,
経験	268(27.2%)	心がけていること. 気をつけていること
感情	172(17.5%)	大変だった. つらい. 楽しい, 悲しい
進路・資格	126(12.8%)	進路. 資格. 仕事に就く方法など
理由	79(8.0%)	きっかけ, 仕事に就いた理由など
言葉	24(2.4%)	仕事での忘れられない一言, 言葉
その他	22(2.2%)	仕事以外に関する質問など

本実践では、これらの質問に社会人が回答し、回答をもとに生徒がさらに質問を重ねるという形式が取られた。

回答内容は、生徒グループが調べ学習の過程で「壁新聞」をまとめる際の資料や、当該中学校で以前から実施されている A4 2 ページの卒業論文(卒業作文)制作の際の重要なリソースとなっている。生徒のみならず、保護者への好影響も確認された。

本実践全体ではその他にもいくつかの知見が明らかになったが、オンラインでの交流の際、「質問」「回答」が重要な指標になることなど、生徒と社会人の交流に基づくキャリア教育で留意すべき論点を抽出できた。

(2) 大学における学生間交流の実践

本報告では、2010 年後期に開講した授業 Q について取り上げる。本授業実践では、様々

な大学の受講学生が1度に介する「合同対面授業」を実施した点に特徴があった。

合同対面授業では、グループ学習を通じた学習を促進し、自身が生活している地域や日常を対象化させるための手段として、「写真」を撮り、共有するという行為に着目した。

具体的には、カメラ付き携帯端末（Apple iPod Touch）やスマートフォン、あるいはデジタルカメラを用いて、「自分の地域」や「自身の一瞬」をテーマとした写真を撮影させ、グループで共有することを、グループ学習の課題とすることにした。

交流を促進するため、履修者全体を所属大学や性差、学年などを考慮し、28グループ（1グループ5～6名）に分けた。合同対面学習が始まる以前から、グループでのやりとりをLMSなどでできるようにし、写真の共有を促した。各自が撮影した写真は、PCはもちろん、スマートフォンなどの携帯端末からも直接共有することができるようにした。結果として、全体で約800枚（速報値）が事前に共有されたことを確認している。

合同対面授業では、グループで共有した写真をリソースとして利用しながら、各グループ単位で広報誌に見立てたポスターを模造紙で作成することを課題とした。

結果として、図3の例に示すように、地域性のみならず、学生一人ひとりの日常の振り返りを合同対面学習のグループ学習では促すことができたと考えられる。



図3 合同対面授業ポスターの事例

その他の学習効果についても含め現在、研究を進めているが、写真という媒体を通して、キャリア教育としての「自己理解」と同時に、「地域性の理解」へつなぐことができる可能性が示唆されたと言える。

(3) Twitterを用いた大学での授業実践

本報告では、2010年度の後期に実施した授業Bについて主に取り上げる。本授業実践は、「学習環境」や「企業内人材育成」をテーマとし、幅広い年齢層のキャリアデザインに役立ててもらおうことを志向している。

授業では、Twitterのハッシュタグと呼ばれる機能を用いて、情報共有が図れるようにした。Twitterの投稿にあたっては、

- (1) 授業内容について質問・疑問
- (2) 授業内容を発展させる追加情報
- (3) 授業全般に対する「ツッコミ」（意見、異論、反論、批判なども含む）

などについて書くことなどのローカルルールを設けた。また、誹謗中傷や無責任な発言についてもルールを設けた。

結果はいずれも速報値ではあるが、毎回の授業には約150名が参加し、平均して約80件の投稿が行われた。最も多い回は約140件を超えた一方、投稿が少ない授業は約50件と、授業内容によって投稿数の多少が生じる可能性が指摘できる。

投稿者数に着目すると平均して約21名が投稿していた。これは、授業への平均参加者のうち約15%の投稿であり、Moore, G.A. (1991)が指摘する「キャズム」の壁を越える普及度は得られなかった。しかし、携帯端末等でも閲覧のみの利用者（いわゆるROMユーザー）は、30名を超えていると考えられ、今後の検討課題と考えられる。

内容面では、質問や意見だけでなく、授業の内容を補足するような投稿や、学生同士で議論を深める事例も複数見られており、今後の可能性が示唆される結果となった。

なお、本授業では、学部が持つ通信教育課程のために、通常の授業（通学課程）をビデオ収録し、オンデマンド配信している。通信教育課程は、学生全体の約6割が30～40歳の社会人学生であり、通学生と通信教育課程の学生の接点を設けることができれば、キャリアデザインという観点から見ても、双方にとって意義のある意見交換が可能である。

両者の交流の実現のためには、Twitterのリアルタイム性と、オンデマンド型受講という非同期性という異なる性質を結ぶ仕組みを検討する必要があるなど、新たな研究課題を見出すこともできた。

いずれの実践研究でも、オンライン上での交流、コミュニケーションを通して、仕事や職業についての理解、自己理解、また自身を取り巻く地域などについての理解を促すことができたと考えられる。今後、これらの成果について整理し検討し、引き続き国際会議や論文等で発表を図っていきたい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

- ① 尾澤重知, 加藤 尚吾, 西村昭治(2010) 社会人メンターを導入した中学校でのキャリア教育の実践と評価. 日本教育工学

会雑誌, Vo.33, No.3, 321-332 (査読有)

- ② 尾澤重知, 市原宏一(2009) 学生からの授業提案に基づく新規授業のデザイン 大分大学高等教育開発センター紀要 (1), 69-91 (査読無)
機関リポジトリアドレス:
<http://ir.lib.oita-u.ac.jp/dspace/handle/10559/14754>

[学会発表] (計7件)

- ① 森裕生, 末本哲雄, 山下茂, 尾澤重知 (2010) 大学間連携における交流型グループワークを実施したブレンディッド・ラーニング型授業の学習促進評価, 日本教育工学会 第26回 大会講演論文集: 965-966
(2010年12月16日、大分大学)
- ② Yuki MORI, Shohei SHIMADA, Tetsuo SUEMOTO, Shigeru YAMASHITA, Shigeto OZAWA(2010) An Evaluation of "Face-to-Face" Group Activity on Blended-Learning in University Cooperation, the 18th International Conference on Computers in Education (2010年12月2日、Putrajaya, Malaysia)
- ③ 尾澤重知, 森裕生, 末本哲雄, 山下茂 (2010) オムニバス講義を利用したブレンディッド・ラーニングの効果の検討, 日本教育工学会 第26回 大会講演論文集: 923-924
(2010年9月20日、金城学院大学)
- ④ 森裕生, 尾澤重知(2010) iPodと写真共有アプリを用いた学生間ノート共有の試み, 日本教育工学会 研究報告集 10-5: 57-62
(2010年9月20日、金城学院大学)
- ⑤ 末本哲雄, 森裕生, 尾澤重知, 山下茂 (2010) グループワークを取り入れたブレンディッド・ラーニングの実施～大学連携授業の学習意欲向上を目指して～, 第59回九州地区大学一般教育協議会議事録: 149-15
(2010年9月10日、福岡大学)
- ⑥ 尾澤重知, 市原宏一, 西村善博 (2009) 学生からの授業提案の評価と新規授業の開発, 第31回大学教育学会大会, pp. 232-233. (2009年6月7日、首都大学東京)
- ⑦ Ozawa, S. (2009) An Effective Utilization of On-demand Video As a Resource of Electronic Teaching Portfolios. In Proceedings of World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia and Telecommunications, pp.2264 -2268. (2009年6月25日 Honolulu, Hawaii)

[その他]

ホームページ等

<http://www.ozaken.org/os/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

尾澤 重知 (OZAWA SHIGETO)

早稲田大学・人間科学学術院・准教授

研究者番号：50386661